Smile
ケアケア通信【Vol.9】
発行人：スマイル☆ケアケア事務局
発行日：令和2年10月11日

お月見サロン開催記

～　ウィズコロナ、どうしてる？～

先月号でご案内した**「月に願いを　お月見サロン」**が10月2日に開催されました。この日は満月。月の出時間の18:10を過ぎると、琵琶湖の水面に帯のように月光を映して、赤みを帯びた月が上がってきました。参加者の皆さんが揃う頃には、雲のない夜空にくっきりとしたお月様が！

各地から参加のメンバーもそれぞれ満月を確認するなど盛り上りました。お月様の優しい光のもと、皆さんとお話しながら様々な気づきをシェアして頂きました。

- ◆みんな共通の「コロナ」でむしろ一体感を感じている
- ◆様々な「ノイズ」に気づいた
- ◆不登校になっていた子がコロナで戻ってきた！
- ◆敬老の日に両親に何かプレゼントを、と考えたけれど、コロナで外出機会がなく衣服も不要、食べ物も投薬中で制限がある、感染予防で会いに行けない、と選択肢がない！普段いかに気持ちを表すよりも「モノ」「コト」に頼っていたのか、と気づいた

静かに輝くお月様のもと、素敵な集いとなりました！

障がい者の高齢化
受け入れ施設の体制は・・？

前号でもご紹介した障がい者のケア。厚生労働省の「生活のしづらさなどに関する調査」でも障がい者の数は増え続けており、障がい者手帳の保持者が5年で80万人の増加(H28)、人口全体の割合でも８%弱と公表されています。

成人障がい者の増加に伴い、厚生労働省は**地域や施設など包括的な対応が必要**、と検討を重ねています。ケアケアメンバーの関わる施設でも、高齢化に向けた職員の教育、設備投資を始めています。一人の職員さんに伺ったところ「共介護者である親の高齢化に伴い、ケア参加に困難さが生じ、障害を持つ子供の今後を心配されています。利用者さんが充実した人生を送れるように、一緒にがんばってきた親たちを安心してあげられるように、高齢化対策に力を入れたい」と話していました。一方、目の前の仕事に手いっぱいでは将来確実に起こる利用者の高齢化に向けた備えができないのも現状です。そのためには慢性的な人手不足解消と、**施設の職員の働き方見直し**が急務です。3年離職率も高い施設が多い介護業界。コロナ離職者の受け皿になりうるか、施設の働き方の見直しを早急に進め、**人材育成**や**処遇改善**の整備を進めることこそ、ケアラーの安心につながるのではないでしょうか？

元気だった家族が突然病気になったらあなたはどうする？ Mさんインタビュー後編！

病気のお子さんのケアをしながらお仕事をされてきたMさんへのインタビュー。前編ではこれまでの大変なお話をお伺いしましたが、後編ではそのケアラー生活の中で感じられてきたこと、読者へのメッセージをお送りします！

Mさん：女性
お二人の子どもを育てながら
教職員として勤務
お子さんの突然の発病に直面

ケ：本当に大変なご経験でしたね・・
Mさん：日本の障害者雇用はまだまだ進化の途中にあり、精神や発達において困難を抱えながら両立を希望する人達に対する、継続的なキャリア形成のための支援が十分整っているとは言えない現状があります。
また、メンタル疾患について正しい知識を習得するための教育（メンタルヘルスリテラシー教育）や、多様な個性を持つ児童・生徒の職業能力を身につけるための教育も不十分です。

ケ：困難を抱えることになった当人や家族も、周りの人たちも、どうしていいかを充分に学ぶ機会がないということですね
Mさん：はい、また医療における職業リハビリテーションについても就労支援が診療報酬の算定に入っていない、心理・社会的療法のうちSST（生活技能訓練）は算定されているものの、WRAP（元気回復行動プラン）　IPS（個別援助付就労支援）　などは算定の対象とならず、これまで大半の病院では入院中の作業療法やディケアメニューにも就労に必要なメニューを多く取り入れてこなかった経緯があります。
医療における職業リハビリテーションについては現在の診療報酬算定の見直しを進めリワークをスムーズに行ったり地域生活が出来るスキル習得の情報提供をしたりするメニューが増えることを望んでいます。院内での超短時間雇用も広がっていくとよいですね。

ケ：特に就労支援、自立支援の仕組みが整っていなかったということですね。
Mさん：**明るい流れ**もあります。
働き方改革の流れで始まった**「多種・多様な人たちが力を合わせて成果を出す働き方」**がコロナ禍の中で加速し、テレワークや短時間勤務など柔軟な働き方も浸透しつつあります。コロナ禍は社会に様々な変化を起こしていますが、働く人の事情に配慮し、個人の強みを活かしチームで支えあって成果を上げる働き方に転換する起爆剤的な役目を果たしているようにも思えます。
この流れの中で**障がい者手帳を持つ人も精神疾患を経験した人も仕事をするうえで特別な人とはならず、介護や育児などほかの制約をもって働いている人達と同じように強みを活かしながら会社に貢献できる人材に育っていけるよう**になるのではないかと思います。
ケ：人が会社に合わせるのではなく、会社が人に合わせ、誰もが働きやすい職場を組織で整える時代になりました
Mさん：精神疾患好発期は思春期から３０歳ごろまでだといわれていますから、小学校高学年ごろから学校や地域でのメンタルヘルスリテラシー教育が必要ですし、自分を理解し仕事を理解し職業能力を身に着けることを中心に置いたキャリア教育を生涯にわたって継続してやり続ける必要も感じています。**会社だけではなく、社会教育と学校教育の両輪で、誰もが生涯学習し続ける**ことによって、人生１００年時代を豊かに生きることが出来るのではないかと思います。みんなで力を合わせて、誰もが働きやすく暮らしやすい社会を作っていきましょう・・！

編集後記　皆さま、今月のケアケア通信はいかがでしたでしょうか？
ケアケアお月見サロンでは秋らしい気候の中、美しい満月を配信をさせて頂きました！その後の栗とお芋三昧は言うに及ばず、炭水化物過多が気になる秋空です。さて前号から引き続きMさんのインタビューでは、病気のお子さんのケアについて、社会全体の動きを合わせて知る機会を頂きました。感謝～！誰もが社会に参加できるインクルーシブな世の中に向けてケアケアも頑張る！と鼻息荒めです（ケアケア通信編集部Mino）次号は**11月11日**発行です。お楽しみに～(^^)/

【連絡先】スマイル☆ケアケア事務局　Email：smilecarecare@gmail.com